

第20回映像メディア英語教育学会

九州支部研究大会2018

The 20th ATEM Conference of Kyushu Chapter

大会テーマ：教育における映像メディアの可能性

Theme: Possibility of Multimedia in Education

[日時 Date]：2018年8月25日（土）（August 25th, 2018）

[会場 Place]：北九州市立大学北方キャンパス（The University of Kitakyushu）



第20回映像メディア英語教育学会九州支部研究大会

会場 : 北九州市立大学北方キャンパス
日程 : 2018年8月25日(土)
大会テーマ : 教育における映像メディアの可能性

13:00～ 受付開始 (本館2階 D201教室前)

13:30～ 開会式・支部総会 (D201教室)

司会: 村田 希巳子
吉村 圭
石田 もとな
吉村 圭

- ・支部長あいさつ
- ・会計報告
- ・新運営委員承認

14:00～ 研究発表 (D201教室)

14:00～14:30

ディズニーアニメーションで失われたA. A. ミルンの平和主義的傾向: *Winnie-the-Pooh*
原作小説とアニメーションの比較から

吉村 圭 (鹿児島女子短期大学)

14:35～15:05

医療系メディアの活用で医学生のニーズに応える: 解剖英語の学習を例に
南部 みゆき (宮崎大学)

15:10～15:40

大学英語導入教材としてのスティーブ・ジョブズ学位授与式講演

生田 和也 (鹿児島女子短期大学)

15:50～16:20

言語学的視点から見た言語資料としての映画の台詞について—『ソーシャル言語学の意味
論的再検討』の刊行によせて—

松中 完二 (久留米工業大学)

16:25～16:55

【支部交流発表】 Social Problem Films の教育的利用について

河野 弘美 (京都外国語短期大学)

17:00～17:30

【支部交流発表】 映像メディアの持つ魅力 — 「動き」を表す動詞を例に—

横山 仁視 (京都女子大学)

17:35～ 閉会式 (D201教室)

・閉会のあいさつ 秋好 礼子

【発表1】 14:00~14:30

ディズニーアニメーションで失われたA. A. ミルンの平和主義的傾向：*Winnie-the-Pooh* 原作小説とアニメーションの比較から

吉村 圭 鹿児島女子短期大学

司会： 石田 もとな

本発表では、A. A. ミルンが著した小説 *Winnie-the-Pooh* と、ディズニーによってアニメーション化された同作品の比較を行う。

ミルンは20世紀の2つの大戦の時代を生きた作家であり、第一次大戦では激戦地ソムムでの戦闘を体験している。大戦がミルンの思想に与えた影響は大きく、ミルンが著した戦争に関する論考 *Peace with Honour* では、恒久的平和のためには攻撃だけでなく、国防目的の軍備さえも放棄しなければならないという平和論が展開されている。

Winnie-the-Pooh は2つの大戦の幕間に書かれた。その物語は *Peace with Honour* で述べられたようなミルンの平和主義的思想を反映するかのようには、戦争を連想させる描写が徹底して回避されている。しかしディズニーによってアニメーション化された同作品では、ミルンが描いたその完全なる平和が改変されており、武器や暴力を連想させる描写が散見される。

この発表では原作とアニメーションを比較することで、アニメーション化の際に生じた問題について考察を行う。

【発表2】 14:35~15:05

医療系メディアの活用で医学生のニーズに応える：解剖英語の学習を例に

南部 みゆき 宮崎大学

司会： 石田 もとな

発表者が勤務する宮崎大学では、医学教育の国際認証の影響もあり、2年次の後期に実施されていた解剖実習が半年前倒しになった。学生は、およそ2000語の解剖用語を英語で覚えることが求められるが、基本的には全て自学習の範疇である。発表者は5年ほど前より、その解剖用語の英語学習の一助となるような授業を展開してきた。始めた当初は、授業用に準備したのはスライドとハンドアウトのみであったが、近年は取り扱う内容によって、英語圏の医療系の映画、ドラマを始め、Tutorial のビデオ教材、を取り入れている。医学生が目当たりしている「解剖英語学習の脅威」に寄り添いつつ、英語力に開きのある学生にいかに関心を持たせるか、を模索しながら続けてきた授業の、構成・具体的に使用した教材・非専門分野を取り上げる英語教員の立ち位置とその苦悩・学生からのフィードバックなどについて報告する。

【発表3】 15:10～15:40

大学英語導入教材としてのスティーブ・ジョブズ学位授与式講演

生田 和也 鹿児島女子短期大学

司会： 林 裕二

本発表では、小中高大の接続、現代の大学英語教育の在り方、さらに授業実施校の特性を踏まえた上で、スティーブ・ジョブズの「スタンフォード大学学位授与式講演」(2005)を教材とする大学英語導入授業の開発と、その効果の検証を目的とする。

研究対象となる授業は4年制大学1年次の英語リーディングの授業ではあるが、授業実施校ではこの授業を、単に英語力を向上するだけではなく、「大学生力」を確立する場と位置付けている。この点において、ジョブズが自分自身の大学生活から得た教訓を語る学位授与式スピーチは、最適な教材であると想定される。

本論では、授業実践と受講生の学びの分析を通して、特に大学1年次の英語教育が英語力以外にもたらしめるものにも着目したい。大学外国語教育の自由化や多様化の波の中、大学でいかに英語を教えるかという問いには正答はない。だからこそ、個々の実践や研究の蓄積と共有が不可欠であり、本研究もその一端たろうとする試みである。

【発表4】 15:50～16:20

言語学的視点から見た言語資料としての映画の台詞について

—『ソシユール言語学の意味論的再検討』の刊行によせて—

松中 完二 久留米工業大学

司会： 林 裕二

意味研究において、意味の抽出と分析は、言語資料を基に行われるべき性質のものである。そして語の意味認識は、場面と文脈という背景情報を基に成立する場合が多い。この要素を満たす言語資料は、必然的に会話文としての色合いを帯びたものとなる。しかしながら、これまで言語学の世界では、意味研究の題材に会話文が用いられることは皆無に等しかった。更には多義現象を扱う意味研究の世界で、言語資料といえば文芸作品からの用例が主だった。文の意味解釈の研究に際して、映画の台詞における会話文を題材として用いることは、現在でこそ珍しくもなくなった。そして映像メディアによる言語資料の研究は、現場の教室での実例や映画作品のトリビア的側面だけでなく、言語学的に意味の研究としても価値のある多面的用途を有している。

本学会が「映像メディア英語教育学会」と名称変更し、メディアにおける言語資料の英語教育への適用を探ることを目的とする現在、今一度原点に立ち返り、言語学的視点から言語資料の性質を明確化し、映画の台詞を言語資料とする利点、またその教育への可能性について、先般刊行された拙著『ソシユール言語学の意味論的再検討』(ひつじ書房)を基に考察する。

【支部交流発表】 16:25～16:55

Social Problem Films の教育的利用について

河野 弘美 京都外国語短期大学（西日本支部）

司会： 吉村 圭

19 後半～20 世紀に誕生した映画は最初、工場から出てくる人や町を歩く人々など、ごくありふれた日常を切り取った記録的なものであった。その後、娯楽性の強い映画が製作されていくが、1910 年代～1940 年代に「Social Problem Film」という新たなジャンルが誕生する。その定義は、

a 'fiction film in which social issues motivate plot and action, and dramatic conflict revolves around protagonists' interaction with social institutions'¹

上記定義同様に社会問題に目を向けたものとして 18 世紀のイギリス人画家ウィリアム・ホガースに代表される風刺画や 19 世紀に誕生したイギリスの大衆紙『タイムズ紙』や『パンチ』等のイラストを取り入れた視覚的メディアがある。視覚的メディアはイギリス国民に広く親しまれ、政治に圧力をかける原動力へと変化していつている。ジャーナリズムの紙面上に描かれる社会問題の提起よりも「Social Problem Films」は人物個人に焦点を当てることができ視聴者は社会問題をよりリアルに体験し実感する事が出来る効果が含まれている。本発表ではその点に注目し、2016 年度に制作された『わたしは、ダニエル・ブレイク』（英国）を取り上げ、「Social Problem Films」のもつ教育的効果と活用法の一例を紹介する。

¹ Kuhn, Annette and Guy Westwell, *Dictionary of Film Studies*, Oxford University Press: Oxford, 2012, p.383.

【支部交流発表】 17:00～17:30

映像メディアの持つ魅力 — 「動き」を表す動詞を例に—

横山 仁視 京都女子大学（西日本支部支部長）

司会：吉村 圭

話し手[書き手]の意図が聴き手[読み手]に効果的に伝わるためには、映像が持つ力とともに洗練された文体・語彙に工夫が凝らされていることが必要である。学習者が表面的な意味ではなく、真にそれらが意図していることを理解することでコミュニケーションが成立すると考える。この発表では、TEDtalks から(1)～(6)を取り上げ、「動きを表す動詞」が場面と登場人物の気持ちを表すことに役に立っていることを提示する。聴き手[読み手]からすれば実体験がなくてもその状況での人の移動をリアルな映像として思い描くことが容易となることから、広義的にコミュニケーション活動の重要な視点としても学習者に留意させたい。

- (1) ...so it's a really interesting day when you wake up at the Kennedy Space Center and you're going to go to space that day because you realize by the end of the day you're either going to be floating effortlessly, gloriously in space, or you'll be dead.
- (2) And I got my pressure suit built around me and rode down outside in the van heading out to the launchpad -- in the Astro van -- heading out to the launchpad, and as you come around the corner at the Kennedy Space Center,...
- (3) We ride the elevator up and we crawl in, on your hands and knees into the spaceship, one at a time, and you worm your way up into your chair and plunk yourself down on your back.
- (4) And then about three and a half minutes before launch, the huge nozzles on the back, like the size of big church bells, swing back and forth and the mass of them is such that it *sways* the whole vehicle, like the vehicle is alive underneath you, like an elephant getting up off its knees or something.
- (5) So we came back, we came thundering back to Earth and this is what it looked like to land in a Soyuz, in Kazakhstan.
- (6) And then eventually the Russians reach in, drag you out, plunk you into a chair, and you can now look back at what was an incredible experience.

(https://www.ted.com/talks/chris_hadfield_what_i_learned_from_going_blind_in_space)